

全国の火山活動状況(1990年1月～6月)

気象庁地震火山部
地震火山業務課

気象庁が常時監視を実施している19火山とその他の火山について、1990年1月から6月までの活動状況を、この期間に得られた情報をもとに要約した。

全国火山活動状況を第1表に、火山情報発表状況を第2表に示す。

第1表 全国火山活動状況(1990年1月～6月)

Volcano	1	2	3	4	5	6
Asosan	△	△	●	△	△	△
Sakurajima	△	△	△	△	△	△
Izu-Oshima	●	●	●	●	●	●
Tokachidake	●	●	●			●
Meakandake	●	●	●	●	●	●
Niigata-Yakeyama	●	●	●	●	●	●
Kusatsu-Shiranesan	●	●	●	●	●	●
Fukutoku-Oka-no-Ba	●	●	●	●	●	

△ Eruption ● Anomay

第2表 火山情報発表状況(1990年1月～6月)

火山名	桜	阿	浅	伊	雌	十	樽	有	北	吾	安	盤	那	草	御	三	雲	霧
情報	島	蘇	間	豆	阿	勝	前	珠	海	妻	達	梯	岳	津	岳	宅	仙	島
定期	6	6	6	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1
臨時	10	5	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0

桜 島（鹿児島地方気象台）

月別の活動の推移は第3表のとおりである。

第3表 桜 島 観 測 資 料

月	1990/1	2	3	4	5	6
噴 火 回 数	26(14)	20(14)	12(5)	23(12)	37(19)	25(12)
地 震 回 数	3787	3548	3345	3568	4076	2859
微動継続時間合計(h)	70.2	151.0	153.6	94.8	128.8	244.9

()内：爆発回数 地震回数：B点（地震＋微動）

地下活動、表面現象とも引き続き活発な活動が続いた。

5月1日午後の爆発で多量の噴石を4合目まで飛散させ、強い空振のため桜島島内と鹿児島市内で窓ガラスが破損する被害が発生した。被害を伴った爆発は1989年1月28日火山礫により桜島島内で自動車のガラスが破損して以来約1年3か月ぶりのことである。

伊豆大島（大島測候所）

火山性地震の月別回数は次のとおり（C点）。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地 震 回 数	16	0	26	55	48	55

カルデラ内が震源とみられる火山性地震は少ない状態が続いた。火山性微動は3月から減少を始め、4月26日を最後に観測されなくなった。また3月から噴煙が減り始め、測候所から噴煙が見えない日が次第に増加した。噴煙の最高高度は300mであった。三原山火口底の温度は昨年12月をピークに次第に低下し、6月は最高点で160°C程度であった。

外輪山南西縁の噴気活動は引き続き認められたが、温度等には大きな変化は認められなかった。

浅間山（軽井沢測候所）

月別の活動の推移は第4表のとおりである。

第4表 浅間山観測資料

月		1990/1	2	3	4	5	6
A	火山性地震	2	9	302	122	149	143
	火山性微動	—	—	4	9	16	1
B	火山性地震	61	182	1222	773	922	645
	火山性微動	—	—	31	21	38	1
C	火山性地震	35	112	998	581	628	455
	火山性微動	—	—	19	20	37	1
D	火山性地震	5	6	248	107	107	120
	火山性微動	—	—	8	8	7	—
E	火山性微震	17	33	731	358	493	350
	火山性微動	—	—	8	9	24	1

火山性地震及び火山性微動は3月上旬から多い状態が続いた。

同様に噴煙活動も3月から次第に増加し噴煙活動の活発化が目立ち、噴煙量4（やや多量）を観測した日が多かった。噴煙の色はすべて白色であった。

4月3日上空から、火口観測を実施した。火口内の形状は前回（1989年9月）と変化はないと思われる。噴煙の色は、大部分が白色であったが、一つの噴出口からやや茶（黄）色味があった噴煙が見られた。

4月24日に浅間山周辺の水溫・PHの測定を実施したが異常は認められなかった。

阿蘇山（阿蘇山測候所）

月別の活動の推移は第5表のとおりである。

第5表 阿蘇山観測資料

月	1990/1	2	3	4	5	6
噴火回数	1	2	0	2	9	7
地震回数	38	46	45	47	37	31
孤立型微動回数 0.5 μ 以上	11428	15313	16821	13251	7493	7307
連続微動平均振幅 (μ)	0.7	0.9	0.8	0.7	0.5	0.7

1月以降の中岳第一火口は、火山灰やスコリア状の噴石を含んだ噴煙を吹き上げ表面活動、地下活動ともに活発な状態が続いた。このうち2月8日から4月19日の間は噴火がなかった。

4月20日の噴火で広い範囲に降灰があり、農作物等に被害があった。(詳細は本文参照)

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
湯だまり温度	—	25℃	52℃	—	—	—

十勝岳(旭川地方气象台, 定期火山情報: 6月25日)

月別の活動の推移は第6表のとおりである。

第6表 十勝岳観測資料

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	5	2	9	9	12	9
微動回数	1	1	0	0	0	2

火山活動に大きな変化はなかった。6月20日~22日に現地観測を実施した。

- (1) 62-1火口の変色域の範囲に大きな変化はない。変色域の色は前回と比べ薄くなっている。噴気温度及び地中温度は前回よりかなり低くなっている。
- (2) 62-2火口は、活発な噴気活動を続けている。
- (3) 大正火口は、弱い噴気を続けている。
- (4) 噴気孔付近には硫黄が付着し、下方に流れている。
- (5) 旧噴火口(安政火口)は、大小多数の噴気孔があり、やや活発な活動を続けている。

雌阿寒岳(釧路地方气象台, 定期火山情報: 6月2日)

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	111	719	90	53	101	638

- (1) 火山性微動は観測されていない。
- (2) 遠望観測による噴煙の高さや量に大きな変化はない。
- (3) 6月2日に現地観測を実施した。

3-1 ポンマチネミリ火口(本峰)

第1火口の噴気孔は昨年秋に比べると噴気の勢いが強くなっている。第4火口の噴気孔は活動が衰弱し湯だまり状態になったが、火口周辺の一部で地中温度の上昇が認められた。

3-2 中マチネミリ第3火口

相変わらず活発な噴気活動が続いているが、大きな変化は認められなかった。

樽前山（苦小牧測候所，定期火山情報：5月28日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	3	18	5	3	9	0

- (1) 火山性微動は観測されていない。
- (2) 遠望観測では、噴煙に大きな変化はない。
- (3) 5月23日～24日に現地観測を実施した。
 - 3-1 A火口は、臭気の強い噴煙を上げ活発な噴気活動をしている。
 - 3-2 その他の噴気孔からも有毒な火山ガスを含む高温の蒸気を噴出している。
 - 3-3 各噴気孔の噴気量、噴気温度、ドーム周辺の地中温度及び火山ガスの測定値はこれまでと大きな変化はない。

有珠山（室蘭地方気象台，定期火山情報：5月11日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	8	10	9	7	12	8

5月8日～9日に現地観測を実施した。

昭和新山 土砂や岩が崩れやすい状態になっている。

亀岩の噴気温度は5月227℃

四十三山 噴気や周辺の状況に変化はない。

北海道駒ヶ岳（森測候所，定期火山情報：5月29日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	2	0	2	61	2	3

昨年12月、本年4月に火山性地震の増加があったが、それ以外は火山活動に大きな変化はなかった。

5月23日～24日に現地観測を実施した。

- (1) 大正火口付近の噴気地帯の最高温度は94℃で前回と殆ど変化はない。
- (2) 昭和火口、安政火口及び亀裂の所々では、弱い噴気活動を続けている。
- (3) 山麓温泉の状態は、特に変化はない。
- (4) 剣ヶ峰、砂原岳及び火口、亀裂では岩石が崩れ易く、また火口、亀裂付近では高温の蒸気や火山ガスがでている。

吾妻山（福島地方気象台，定期火山情報：6月13日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	7	2	5	1	2	2

遠望観測で噴煙の出ているのを確認できた日は少なく，噴煙量も少量であった。5月29日，6月4日に現地観測を実施したが，異常は認められなかった。

安達太良山（福島地方気象台，定期火山情報：6月13日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	7	2	2	2	1	1

5月30日～31日，6月7日に現地観測を実施した。沼ノ平西方登山道付近の噴気地帯では，地熱の高い状態が続いており，また鉄山南斜面登山道付近の噴気地帯では引き続き亜硫酸ガスが検出された。

磐梯山（若松測候所，定期火山情報：6月20日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	24	16	6	5	22	55

6月12日～14日に現地観測を実施した。火口壁の崩壊が進行しているが，その他には特に異常は認められなかった。

那須岳（宇都宮地方気象台，定期火山情報：5月28日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	13	15	20	23	62	84

5月22日～23日に現地観測を実施したが異常は認められなかった。

5月14日17時48分に那須岳南南東山麓で震度Ⅱと推定される火山性地震があった。

草津白根山（前橋地方気象台，定期火山情報：6月22日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	15	95	140	96	172	195

- (1) 2月中旬以降火山性地震の増加及び火山性微動の断続的な発生が続いている。
- (2) 遠望観測では異常は認められなかった。
- (3) 6月11日～12日に現地観測を実施した。湯釜湖面の中央から東よりに白色変色域の拡大が観測された。

御岳山（松本測候所，定期火山情報：6月8日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	157	119	128	229	266	143

- (1) 火山性微動は4月に1回観測された。
- (2) 火山遠望観測装置による遠望観測で観測された噴煙は，全て白色で噴煙の量は4月19日に少量を観測した他はきわめて少量であった。
- (3) 6月4日～5日に山麓での湧水観測と遠望観測を実施したが特に変化はなかった。

三宅島（三宅島測候所，定期火山情報：2月23日，6月12日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	7	24	22	14	5	5

2月19日～20日，6月7日～8日に雄山の現地観測を実施した。

雄山の噴気地帯の噴気温，地中温度，噴気量はほとんど変化がなく異常は認められなかった。

雄山山頂の噴気地帯では炭酸ガス以外は観測されなかった。

雲仙岳（雲仙岳測候所，定期火山情報：4月10日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	74	53	66	162	149	208

4月16日～18日に群発地震が発生した（地震回数58回，うち有感1回）。この間6月に向けて次第に地震が増加した。

4月6日に雲仙地獄，小浜温泉の現地観測を実施したが，特に変化は認められなかった。

霧島山（鹿児島地方気象台，定期火山情報：5月25日）

火山性地震の月別回数は次のとおり。

月	1990 / 1	2	3	4	5	6
地震回数	13	41	26	11	17	43

5月9日～10日に高千穂御鉢・新燃岳，5月17日に山麓周辺の噴気地帯の現地観測を実施した。噴気量や温度などに多少の増減，昇降はあったが特に異常は認められなかった。